

# 朝ドラ世界観 衣装に命

## 金沢・金港堂 製作手がける

### 5作品で90着「あんぱん」でも活躍



「あんぱん」のポスターの前でシャツを紹介する宮谷隆之さん。左側のシャツは襟の取り外しができるタイプ＝金沢市片町の金港堂で

金沢市片町の老舗オーダーシャツ専門店「金港堂」が、NHK連続テレビ小説の衣装を次々と手がけている。これまで5作品で90着ほど作り、現在放送されている「あんぱん」でも、主人公の夫で漫画家やなせたかしさんをモデルにした役にオーダーメイド。「朝ドラの常連」として活躍している。

(高橋雪花)

1932年創業の同店が衣装を手がけたきっかけは、「赤毛のアン」で知られる翻訳家、村岡花子の半生を描き、2014年に放送された『花子とアン』。衣装製作会で襟の前後を留める仕組み

で、製作に応じる店が見つからないようだった。3代目の宮谷隆之社長(63)は、社交ダンスをする客から襟のオーダーを受けたことがあり「できます」と快諾。事前に誰が着用するかは知らされなかったが、主人公の夫役の鈴木亮平さんが着ているのをテレビで見て高揚した。

以来15年度の「あさが来た」、20年度の「エール」、23年度の「らんまん」でメインキャストらのシャツを手が

けた。宮谷さんは「明治、大正など古い時代のシャツが必要な時に依頼がある」と話す。「あさが来た」では、デイン・フジオカさん演じる五代友厚が帰宅して襟を取り外すシーンがあったといい「ここまでこだわらなければならない」と感嘆した。

「あんぱん」では、やなせさんをモデルにした柳井嵩などの役に30着ほど作った。ポスターでも、柳井役の北村匠海さんがチェックのベスト風に切り替えを施したシャツを着用。襟を縫い合わせず1枚の布でつなげる「イタリアンカラー」で、やなせさん本人の写真を見本に示された。「斜めを向いていたりするの、写真から立体に落とし込んで作るのは難しい」と語る。朝ドラのみならず、全国の一般客からもさまざまな依頼を受ける。「(店のスタイルに)こだわらない」ことにもこだわっている。どんな要望にも応えるのが本当のオーダー」。客の願いを形にする確かな技術が、朝ドラの世界観を支えているようだ。